

日本学生オリエンテーリング連盟  
会長 河合 利幸

やはりインカレはいいものです。22回を数える大会中、何だかんだで今回で13回目の「参加」になりましたが(それ以上の強者もゴロゴロいるようですが)、いつもあの熱気と闘志と結束には驚かされます。そして、ああまた1年が経ったのだなと思うのです。工科系の大学に勤めている私にとって、卒論・修論指導等でこの時期が1年で一番忙しく、しんどいのです。会長をしていなかったらたぶん日光まで来ていなかったかもしれせん。しかし、今年もあの熱戦を間近に感じる事ができてよかった、翌日には力と若さを分けてもらったかのように元気を取り戻して職場にいる自分を感じることができました。

主役であった皆さんなら尚のこと、いろいろと思うところがあることでしょう。メダルを手に入れた人も、そうでない人も。代表メンバとして選手権クラスでリレーを走れた人も、そうでない人も。泣いた人も、笑った人も。皆さんの手元にこの報告書が届く頃には、在学生の人はもう次回に向けての準備を始めているかもしれません。卒業生の方は、新生活の第1コントロールへ走り始めている頃でしょう。インカレへの取り組み方は、大学や個人で異なり十人十色です。だけど、皆、これだけは言えるのではないのでしょうか。「インカレがあってよかった」と。多少光が見えてきたとはいってもものの長引く不況、加盟員数の減少など、日本学連とインカレ開催にとって悪条件は尽きませんが、この思いが皆の中にある限り、インカレは今後も絶えることなく続けられると信じます。

最後になりましたが、仕事や勉強や育児などの忙しい合間を縫って準備していただいた実行委員会の皆さん、本当にご苦労様でした。そして地元関係者の方々には、土地への立ち入りや会場の提供など、様々な面でご協力いただきました。主催者の日本学連を代表して、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

日本学生オリエンテーリング連盟  
幹事長 西脇 正展

日光インカレが終わってから早一月以上が経ちました。現在、これを書いているのは4月21日です。まず初めに個人戦で優勝した高橋選手、小林選手、また団体戦で優勝した早稲田大学、筑波大学の皆さん、おめでとうございます。また、他のクラスも含めて入賞した皆さん、そして参加した全ての皆さん、お疲れ様でした。この全ての人が主役となるのがインカレです。そうした意味で今年も大いに盛り上がったと思っています。

また、色々のご尽力していただいた実行委員会の皆様、ご協力頂いた地元日光地区の皆様には学生を代表して厚くお礼を申し上げます。これからも日光地区では継続してインカレが開かれるものと思われませんが、宜しく願います。

と、幹事長としての自分はこれくらいにしておきます。最後ですので、一個人としてインカレについて思う所を書いてみようと思います。

他の多くの人達と同じように僕も一年生の時のインカレでやけに感動してしまい、オリエンテーリングにのめり込んでしまった一人です。一年の内にある、いろいろな行事の中でもインカレの行われる数日間は特別な存在でした。

一年間かけてその為だけに努力するような事が他にあるのでしょうか？

心の底から突き上げてくるような何かを感じる事が他にあるのでしょうか？

何の気兼ねもなく涙を流せる機会が他にあるのでしょうか？

終わった後の喪失感をあれ程に味わうことが他にあるのでしょうか？

インカレという特別な舞台の本当の特別性は「もう次の年度末にはインカレがない」という厳然たる事実を突き付けられて初めて分かることなのかもしれません。いまだに僕には今年度はセクションに出る必要がなく、必然的にインカレに向けて努力するという意味がないという事実を受け入れることが出来ずにいるような気がします。

あと一回しかインカレがないと嘆くのはまだまだ良いと思います。だって“まだ”一回あるのですから。

第22回日本学生オリエンテーリング選手権大会  
実行委員長 片岡 由起子

日光インカレで四回生だった僕らには“もう”一回もないのです。あれこれ後悔する前に、“今”何ができるかを考えて次の愛知インカレに向けて頑張ってください。

時間は限られたものですが、限られているからこそ、その中で何かをやることに意味があるんだと思います。時間が無限にあるのなら、“今この時”に何かやらなければいけないという気持ちも起きないし、結果として感動もないでしょう。残る皆さんには(一応)等しく時間が与えられます。人生は長いです。その中に、本気でインカレを考えて頑張る一年があっても良いと思いませんか？ また、別にそうでもないと思う人も、インカレの期間だけはそういう人達の応援を心の底からしてみませんか？

オリエンテーリングという狭い世界に出会ってしまった私達は、インカレという舞台を共有できるという貴重な機会も同時にもらったのです。思う存分活用して欲しいと思います。また来年以降も良いインカレを作り上げていってください。

花粉が乱れ飛ばない程度の程良い「晴れ」に恵まれてのインカレ、いかがでしたでしょうか？

インカレにかける思いが、皆さんそれぞれ異なるように、いま、インカレを終えての思いも、皆さんそれぞれだと思います。予定通りに自分のすべてを発揮できた人、日頃の成果を十分に発揮できなかった人、持っているものプラスアルファを発揮できた人、精一杯応援して、燃え尽きた人 etc...その思いが、できるならいいものであって欲しいのですが、そうもいえないと思いますので、「印象深い」ものであればいいな、と思います。

世の中のものは、ほとんど「生まれ」ては「消え」てゆきます。でも、心の中に残った思い出は消えることはありません。心の奥深くに沈み込んでゆくことはあっても、何かがきっかけでふっとわき上がってきたり……。インカレ当日の思い出もそうですが、そこまでの道のりの思い出もまた、これから先、オリエンテーリングと接する際には(もちろん、それ以外の日常でも)何らかの役割を果たしてくれることでしょう。

1~3年生の皆さんは、来年のインカレはどうするのでしょうか？この素晴らしい体験を後輩達にも味わってもらうためにも、自分自身がまた新しい感動を得るためにも、ぜひ参加して下さい。新しい1年生を連れて！！4年生の皆さんは、この報告書が発行されるころ、それぞれに新しい道を歩み始めているのでしょうか。新しい環境で、いままで通りにオリエンテーリングと接してゆくのは、なかなか大変だと思います。

でも、オリエンテーリングへの接し方は数限りなく存在し、それがオリエンテーリングのいいところです。新しい接し方をさがして、まだまだオリエンテーリングを続けていってください。

最後になりましたが、本インカレの開催にあたり、ご尽力頂きました関係各位の皆様、多大なるご協力を頂きました日光市、今市市の関係各位の皆様、大切な森林をオリエンテーリングの競技の場として快く提供してくださいました市民の皆様、2日間大会に参加して下さいましたオリエンティアの皆様、そしてインカレ参加者として最高の舞台を作り上げて下さった選手の皆さんに感謝し、改めて深く御礼申し上げます。

終わりは始まり。